

事業報告書（令和 6 年度）

事業名 サステナブルファッションについて考えよう
(申請時：エシカル消費とサステナブルファッションについての考察(仮))

団体名 おかやまエコマインドネットワーク 担当者名 藤原幸蔵

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
実施日時：2024年9月1日(日)9時50分～12時40分 実施会場：岡山市立操山公民館(岡山市中区国富三丁目9-12) 参加対象：中学生、高校生、大学生、一般 参加人数：67名 実施内容：9:00 スタッフ集合 9:40～11:30 ドキュメンタリー映画 上映 「ザ・トゥルーコスト ファストファッション 真の代償」 11:40～12:40 田賀朋子さんのお話 「セネガル×岡山で発信する、幸せと可能性をひろげるものづくり」 共 催：岡山市立操山公民館 後 援：(公財)岡山県環境保全事業団 広 報：若い世代に観てもらおうべく地元の操山中学校をはじめ、岡大附属中学校、山陽学園中高、朝日高校、岡山東高校、服飾デザイン科のある岡山南高、山陽学園大学にチラシを置かせてもらった。 アスエコ等環境関係の団体、報道にチラシ送付 アンケート回収数：38 枚
2. ESD の視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか この取り組みの主な視点は「目標 12 持続可能な生産と消費」であるから、ファッションについてはほぼ100%消費者であるわが国では、その消費が持続可能な生産を支えているかを振り返る必要があるが、アンケートでは映画については「生産現場の実情を知ることができた、消費行動を振り返る」など、田賀さんのお話では「一人でもできることがあり、実践していることに希望を感じる」などの意見があった。「ものを大切に使う、長く着ることを考えて買う」「古着を再生利用している」「ファッションは消耗品ではないと思った」という意見もあった また「目標 3 健康と福祉」「目標 10 格差是正」や人権尊重などについても学ぶことができた。

② どのように学び合いを取り入れたか

上記のように映画はあまりにも厳しい現状に胸が痛むという声があったが、田賀さんの取り組みで自分にもできることがあるという気付きを得たと思える。双方の現実を知ることですステナブルとは何かを学ぶことができたと思える

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

映画だけでは遠い国の(発展途上国)出来事と思われるが田賀さんの遠い国でのそこに暮らす人々を支える活動を知ることです自らの消費行動を変える、また、ファッションに限らず、持続可能でない日本でのあれこれ(非正規労働、子どもの貧困等)に思いを巡らし、何かできることをやってみようと思える力を得ることができた。

3. 取組の成果(事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)

共催いただいた操山公民館の館長は中学校の校長の経験があり、この映画や講演はぜひ子どもたちに参加してほしいとの思いから広報活動では各学校にチラシの配布をお願いした。

実際には若い世代は多くなかったが、10代からの意見として「(映画で)ZARAやH&Mなど馴染みのある名前が出てきたので印象に残った」「若い世代に伝えたいのであればアプローチを考えては?」「食ではオーガニックを考えるけど(映画に出てきた)オーガニックコットンまでは思いがいたらなかった」などがあり、若い世代にも受け入れられたことがわかった。

また、岡大附属中の家庭科の先生が参加され、授業に取り入れたいという意見もあったことから、事業の目的は達成されたと思える

4. 今後の課題と展望(事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか)

今回はファッションに焦点を当てたが、自給率で考えれば、食、エネルギー、木材、地下資源等の多くを輸入に頼っている日本ではそのサプライチェーンがそれぞれの場所で持続可能な形で行われているかをしっかり知ること、もし、そうでなければ是正の声を挙げていくことが必要だと思う。はなやかなファッション、豊富な食料に目を奪われずにその裏側もまず知ることからスタートしたい。これからも必要と思われる分野で取り組んでいきたい。

(様式第8号)



館長挨拶



映画上映



田賀さんお話